

# 開基50周年記念碑

昭和35年4月21日建立

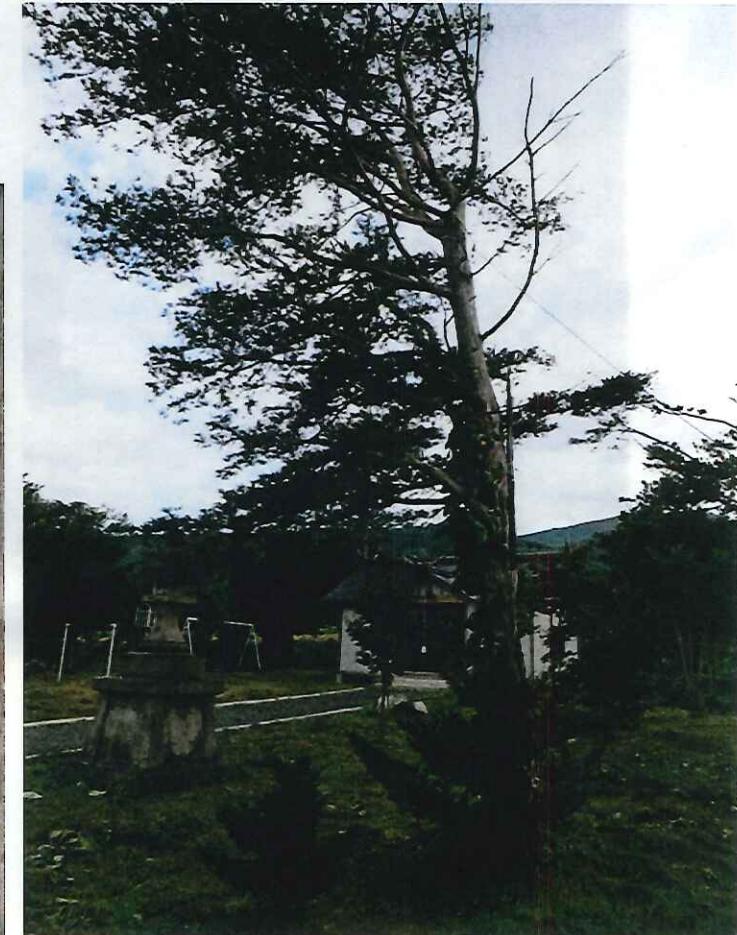
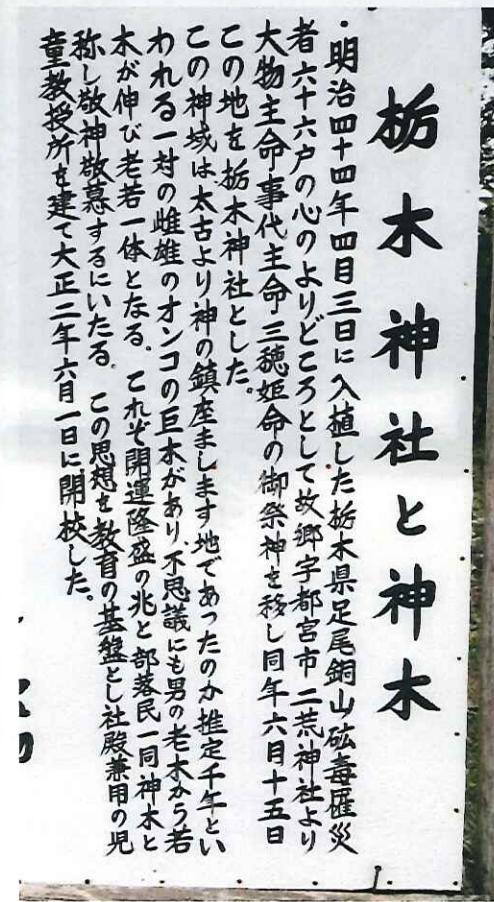




## 日光山多聞寺

大正2年、栃木県日光山内御堂  
前の日光輪王寺の末寺から佐呂  
間町栃木に遷座された









国道333号 交差点の栃木地区案内看板



佐呂間町から北見市へ延びる国道333号 栃木入口交差点



阿部信夫氏の牧場



千葉清美氏の牧場



栃木部落の沿革

栃木部落は明治四十四年栃木県下都賀郡南部八力町村の六十六戸が移住開拓したるを以て嚆矢となる抑々移住の動機は足尾銅山の採鉱精錬移鉱毒は耕地に氾濫して農作物魚族を枯死滅亡せしめ農民生活は極度に疲弊窮乏し加うるに当たり鉱毒を渡良瀬川に排流して顧みず其の為洪水毎に未曾有の大洪水を齎し沿岸の惨状言語に絶し住民は悉く再起不能の被害蒙りたり時の栃木県選出代議士田中正造翁は一身を賭して此の苦難を開せんと欲し足尾銅山鉱毒事件として十数年間政府に陳情請願され又銅山經營者古河市兵衛と争いしも遂に谷中村強制買収の方途に依り集落を告ぐるに至つたのである茲に於て谷中村を追われし一につて一段落となつて北海道鎧沸村サロマベツ原野に入植することになり明治四十一年四月六日小山駅に集合県庁係官大貫権三郎氏郡役所係員並と鉱毒水害の罹災民中六十六戸の希望者が栃木県庁の斡旋に依り移民として大貫とし看護婦二名に引率されて四月十四日武士小学校に到着四月二十日大貫權三郎氏より大貫権三郎氏より栃木十文字看護婦二名に引率されて四月十四日武士小学校に到着四月二十日大貫權三郎氏より大貫権三郎氏より栃木部落の名称を授く其の後昼尚暗き原始林に開拓の斧鉄を入れ又他県移住者と共に凡ゆる困苦欠乏に耐え今日の發展を見るに至ったのである移木一赤四団部よ願苦被茲に栃木部落開基五十周年記念式典を挙行し記念碑を建立す

昭和三十五年四月二十一日

題字  
碑文

栃木県知事  
下野新聞社長

横川信夫  
福島悠峰